



BanRomSai Newsletter [dee]

バーンロムサイジャパン

〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内1036 | Editing & Design Terasse Team: Mariko Y., Kyoshiro N., Noriko A., Yukari M., Kentaro T., Miho N. | **Special Thanks to: Mizuno Pritech, Eiko N., Lisa A., Marisa M., Yuichi S., Ryusaku & Atsuko N.**
NPO Banromsai Japan 1036 Horiuchi, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa-ken 240-0112 Japan tel:046-876-6209 fax:046-876-6219
BanRomSai (Banyan Home Foundation) 23/1 Moo4 T.Namprae, A.Hangdong, Chiangmai 50230 Thailand tel:66-53-022245 fax:66-53-427434

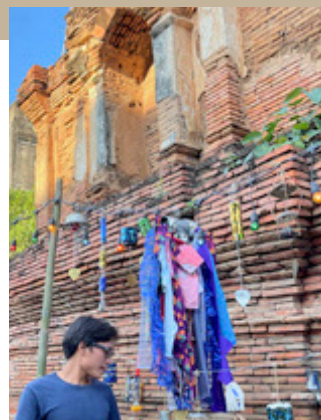


「学期末試験」
子どもたちの通っている学校がやっと開きました。バーンロムサイは集団生活ということもあり、話し合った結果自宅学習を続けることに。そこで長いお休みに入る前の学期末試験のみ学校の教室を貸切にして、小学校1〜6年生までが試験を受けるということになりました。

「子どもたちへのプレゼント」
バーンロムサイにタイの大型スーパーマーケット「Big C」の方々が、子どもたちにプレゼントを持って来てくれました。

「サッカー上達しています！」
雨の合間をぬって、ホーム内で子どもたちがサッカーの練習に励みました。基礎練習を繰り返している効果もあって、めきめき上達しています。

「週末の釣りで大盛り上がり！」
ホームから徒歩5分の貯水池で魚釣り。このちょっとしたイベントも、ホームの外になかなか出られない子どもたちにとっては大イベント！
釣った魚は揚げてみんなでおいしくいただきました。



「チェンマイデザインウィーク」
卒園生のナットがアーティストの一人として参加しました。チェンマイ大学美術学科を卒業後、コロナ禍で就職もなかなか難しく、作ったものをマーケットで売ったり、日雇いの仕事をしたりしながら過ごす日々でした。初めて人前に作品を発表する良いチャンスに出会えて、貴重な経験ができたようです。



「バドミントン」
タイではバドミントンは人気のスポーツ。バドミントンで抜群の運動神経を発揮するメー。



「ロイクラトーン」
コムローイ（天燈）はあげられませんが、キャンドルを灯して hoshiana village も少しだけロイクラトーン気分。

4月

3月

2月

1月

12月

11月

「タイのお正月」
タイのお正月（ソンクラーン）を迎えるにあたって、子どもたちとスタッフで祠のお掃除を。お供え物をして、みんなの手を合わせます。

「暑季に入り、暑くなってきました！」
こんな時は、自分たちで育てたサトウキビをかじって暑気払いに！



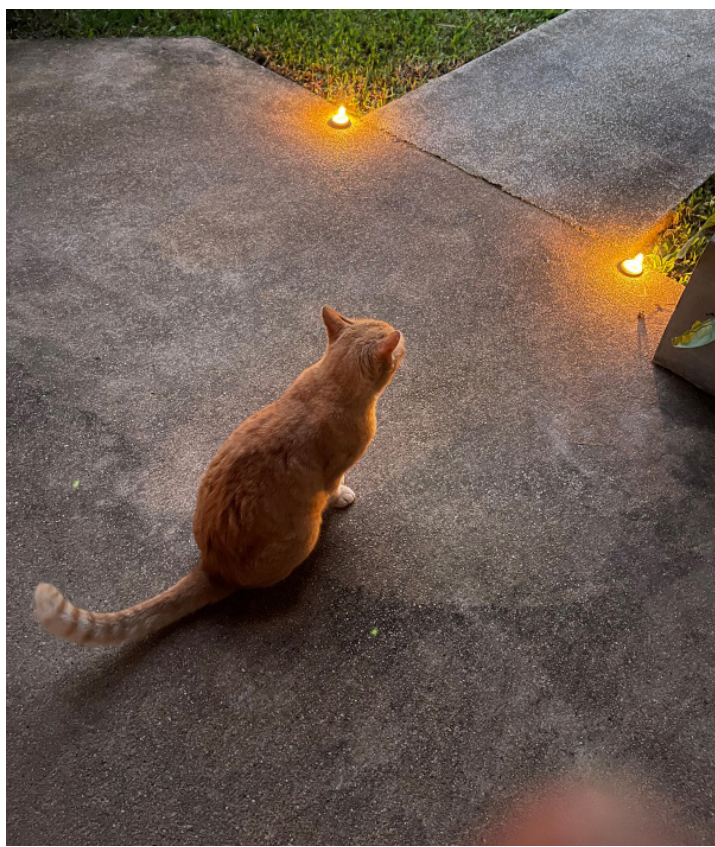
「インゲン収穫！」
紫インゲンの収穫をしました。植えてお世話をして結果が出て、さらにそれが美味しい食事に繋がるので、作物収穫の作業はとっても楽しくなります。

「子どもの日」
毎年1月の最初の土曜日はタイの子どもの日、ワンデック（ワン日、デック日とも）。
タイ人の方からドーナツと牛乳のご寄付。嬉しい子どもの日となりました。



「バーンロムサイの忘年会」
年末に身内だけでささやかな忘年会を開催しました。会の準備を任されたのはニサー、アーバイ、ネーンのお姉さん3人。
飾り付けをしたり、コックさんたちと食事の相談をしたり、催し物の順番を考えたり、準備をがんばりました！この日のために子どもたちも男女に分かれて踊りの練習をがんばってきました。スタッフのお料理も堪能し、とても楽しくて美味しい忘年会となりました。

「ポップコーン」
学校へ行けないだけでなく、ホームの外に出ることさえ出来ない子どもたちの日常に何か変化を、いつも考えているスタッフのペンのアイデアで、自分たちでポップコーンを作ることになりました。子どもたちも興味津々！



バーンロムサイの子ども達
今年も色々な
出来事がありました！



chiangmai report!

Banromsai Children's Home

コロナの影響を受けて2年半。
なかなかホームに日常は戻りませんが…

みんな元気です!

モン族出身の保父コムさんの山の知恵を活かした子ども達の菜園。門の左側まで拡張中。

タイの4月は子ども達の大好きな水かけ祭り「ソンクラーン」が行われる、一年で最も暑い季節です。本来タイの旧正月で、水をかけるのは敬意を払う意味を持ちます。コロナ前は門にならんで道ゆく人々にバケツや水鉄砲で水をかけまくっていた子ども達でしたが、今年もホームの門は閉ざされたままでした。

…が、それでも元気いっぱい! バーンロムサイの子ども達は敷地の中でそれなりに楽しんでいる様子。晴れた日にはベンさん達にせがんで裏の敷地に釣りに行ったり、子ども達の菜園で作業をしたり。敷地の中でサッカーの練習も頑張っています。



子どもの日にいただいた
ドーナツ。嬉しすぎ!



ホームの食堂は引き続き閉鎖中。
財団やホシハナススタッフ分は
テイクアウト仕様に! 卒園生の
ヌンやゲンが届けに来てくれます。

ホームから裏の貯水池まで徒歩5分。
釣りには参加しない小さな子どもたちや
保母さんも一緒にちょっとした
ピクニック気分。



おかげさまでみんな元気です!

週末、男の子はサッカー、女の子は
タイ舞踊の練習。お庭の砂利で絵を
描いたり暑い中でも遊びに余念がない。
平日のリモート授業はホームの図書館で。



イム、タイタン、ピーマイの 新しい生活

2016年にチェンマイ市内のヴィエンピン国立孤児院からバーンロムサイへ来たイムとタイタン姉弟。少し遅れ2017年に末っ子ピーマイも入園。ホームに来てから一度だけ母親と国立孤児院で会いました。

その時はまだ経済力などの環境が整っていないとヴィエンピンが判断し、引き続きバーンロムサイで預かることに。その後父母ともに音信が途絶えていました。



いたずらっ子のトゥンタオ(犬)との
別れを惜しむタイタン

今年になり、タイの東北部ウボンラーチャターニー県で新しい夫とともに暮らしている母が、3人を引き取るだけの条件を満たしていると国立孤児院の職員が詳しく調べ、徐々に準備が進められていましたが、本当の父親に関しては、養育は不可となった後音信不通のままだそうです。

4月25日、国立孤児院のスタッフが車で迎えにきました。

姉のイムは色々事情が分かっているだけに表情が硬く緊張気味です。

子どもたち全員で荷物を運び入れ、車に乗り込んだ3人とお別れ。

その後、国立孤児院で1泊してから、イムたちの他に親や親戚と暮らすことになった3組の子どもたちとともに、車で出発。北部タイのプレー県、ウタラディット県、そしてペッチャブーン県とまわってペッチャブーンのホテルで一泊。

一泊後、一気に東北地方のウボンラーチャターニー県へ向かう長旅です。

車から降りるとお母さんと新しいお父さんが待っていて、お母さんは3人を抱きしめ号泣したそうです。

工事を請け負う人材をまとめる仕事を任されているお父さん。

家の前で食事を作って売ったり、オンラインでも物を売ったりして働いているお母さん。

タイの、ごくごく普通の家の、普通の生活。

面倒見の良いイム8歳、いたずらっ子タイタン7歳、甘えん坊ピーマイ6歳。

母と一緒に新たな生活が始まります。

彼らにとってすてきな未来が開けることを祈っています!



宿泊先のホテルでリラックス



写真日記はこちらからも

